

平成28年度第1回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成28年(2016年)7月28日(木)
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 金目公民館 集会室
- 3 参加者 11人 傍聴者 7人



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆様こんばんは。本日は、第1回目の「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき、誠にありがとうございます。このほっとミーティングでは、市民の皆様の率直な御意見や御提案を直接伺って、市政への反映を図りたいと考えています。

今、人口減少社会に入り、少子高齢化が進んでいます。地方の衰退は進み、今後自治体数は半分になるという危機的な見込みもあります。この時代に各自治体が生き延びるため、将来に向けたまちづくりの戦略を図るようと、国からの指示もありました。

この度、平塚市は、「ひらつかNexT」という新しい総合計画を策定しました。この計画の重点施策は、「強みを活かしたしごとづくり」、「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」です。この中から、市民の皆様の生活に大きく関わる、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、新たなほっとミーティングをはじめていきます。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆様にフィードバックさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

5 主なミーティングの内容

子育てについて

【参加者】

北金目や真田の地域は住宅が整備されて子どもが増えました。しかし、金目地区には、子どもが自由に遊べる公園や広場が少ないと思います。公園まで歩いて30分ほどかかる地域もあり、子どもだけで遊びに行かせることは心配です。

【参加者】

例えば、金目地区の近くには秦野市のおおね公園がありますが、多くの人が自動車で遊びに行きます。地域の施設である金目公民館も、真田の地域からは自動車でないとなかなか来られません。どちらも、子どもだけの利用はとても困難です。そこで、以前から考えていることが交通網の整備です。例えば、コミュニティバスなどの運行により、この課題を解決できるのではないのでしょうか。これは現代の高齢者の方が抱える、買い物や通院の問題にも活かせると思います。

【市長】

真田・北金目特定土地区画整理事業などにより、この地域には新しく多くの人に住んでいただいています。最近、金目地区に来て嬉しく思うことは、子どもの声がとても聞こえることです。新しいまちができて、人が増えたことを実感できます。

子どもが集まって自由に遊べる場所は大切で、当然ハード面の整備も必要ですが、今は新しい公園や施設を次々に造れる時代ではありません。平塚市は公共施設が非常に多いまちで、全部で約72万平方メートルあります。いわゆるバブル期である平成の初め頃、潤沢な競輪場の収益から、様々な施設を建てることができました。しかし、現在は施設の維持管理が難しくなり、10年間で約2万8千平方メートルの集約を計画しています。

御意見のとおり、交通網の整備や構築が様々な課題を解決する方法の一つです。平成25年の4月に新設した交通政策課では、市内各地域が抱える交通の問題を捉えて研究や対策を進めています。金目地区のように、範囲が広く交通手段が限られてしまう地域では、民間バス会社などとの連携も含めた、コミュニティバスやデマンドバス、乗合タクシーなどの運行を考える必要があります。

【参加者】

「金目っ子クラブ」という学童保育で指導員をしています。夏休みは1日を学童保育で過ごすので、遊びがとても重要になります。その中で、子どもが一番楽しみにしていることはプールですが、今年から学校のプール開放日が3日間に1回になりました。理由は、AED（自動体外式除細動器）を設置するために費用がかかり、監視員を配置するための予算が減ってしまったそうです。多少天気が悪くても、3日間に1回しかない開放日なので、無理してプールに入って体調を崩す子どももいます。

【市長】

日頃から、学童保育に御尽力いただきありがとうございます。御意見のとおり、AEDの設置や監視員の配置には費用がかかります。特に、監視員においては、資格などの基準が厳しく定められています。市営のプールも同様の課題を抱えており、限られた予算の中で基準を満たすために費用がかかり、開放日が少なくなってしまう。しかし、今日お話をいただきましたので、条件を確認して、例えば学校の対応による開放なども含めて考えさせていただきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

平成28年度のプール開放事業につきましては、警備業法に基づく監視員の配置を行い、より安全面を確保するため、プールサイドへのAEDの配備を行ったところです。

開放日数については、限られた予算の中でなるべく多くのプール開放日をつけるため、2日置きとして経費の縮減を図り、各校7日の開放日を確保して実施しました。

今後も児童の安全面を第一に考えプール開放の実施に努めてまいります、プール開放のあり方、運営方法などについて多角的に検討してまいります。

（事務担当はスポーツ課施設担当）

【参加者】

平塚市には公立幼稚園が5園あります。港幼稚園は来年度からこども園になりますが、残り4園も同様にこども園になるのでしょうか。金目幼稚園はとても良いところです。地域の住民が子どもを自ら送り迎えするアットホームな幼稚園で、保護者のアンケートでも、きめ細かい対応や体験できる活動、集団生活やルールを学ぶ環境、先生の熱心さなど、この地域に残してほしいものばかりです。全国的に待機児童の課題が目立ちますが、子育て支援とは決して預かることだけではないと思います。

【市長】

働く母親が増えて保育の需要が高まっていることは事実で、全国的に待機児童には取り組む必要があります。平塚市では、民間の保育園や幼稚園にも御協力いただき、平成27年と平成28年の4月に一旦待機児童を解消することができましたが、それでも要望は増えています。

方針としては、今後公立幼稚園単独での存続は難しいと思いますが、決して存在を否定することではありません。私も公立幼稚園の先生方と話す機会があり、先生方の想いや地域ごとの教育の素晴らしさを伺うことができました。港幼稚園と須賀保育園を統合してこども園を開園しますが、これは幼稚園機能を維持しながら保育機能を高める取り組みです。港地区のこども園では、つどいの広場なども整備して、親子がふれあって交流できる施設となります。

【参加者】

大好きな金目地区で生まれ育ち、子育てをしました。主任児童委員をしていて、月に1回子育て支援として、「すくすくっこ」を開催しています。ほっとミーティングに向けて、参加いただく保護者の方に話を聞きました。多くの方が、同じ子育てをする保護者同士の交流を求めています。「すくすくっこ」は月に1回公民館での開催なので、特に北金目や真田の地域の方は、豊田地区にある子育て支援センターのような施設を身近な場所に望んでいます。

【参加者】

「すくすくっこ」は、地域に定着している活動です。いつも多くの親子が参加してくれます。公民館にいと、小さな子どもを育てる母親は、近くて安く安心できる、子連れで集まれる場所を求めていることがよく分かります。公民館で運動会のようなイベントを開催した時にも、多くの方に喜んでいただきました。金目地区も、親子同士が交流できて、地域の子育てをリードしてくれる場所や施設を求めています。

【市長】

「すくすくっこ」や公民館での活動に厚く御礼申し上げます。金目地区に小さな子どもが増えていることを実感できるお話だと大変嬉しく思いました。豊田地区の子育て支援センターは、子育て中の親子が自由に遊び、交流できる施設です。お話を伺いながら、子どもを育てる家庭が増えている金目地区にも、子育てを支援する同様のものを考える必要があると感じました。いただいた御意見をもち帰り、この地域の親子同士が交流できる取り組みを考えたいと思います。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

子育てにおける親子の交流の場については、金目地区のみならず市内全域で必要とされているものと捉えており、現在、港地区において、つどいの広場を平成29年度に開設するための準備を進めているところです。

今後も、各子育て支援拠点の利用状況や財政状況を勘案しながら子育て支援を推進してまいります。また、「すくすくっこ」の活動につきましても保育士の派遣などを実施してまいりたいと考えていますので、御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

（事務担当は保育課子育て支援担当）

【参加者】

金目地区は子どもが増えている地域ですが、子どもの生活に不可欠な小児科の病院が少なく、保育園や幼稚園も他の地域に比べて少ないと思います。子どもの成長を地域で支えるための整備が必要です。

【市長】

近隣市町村の中には、出産できる病院が1か所しかないまちもあるそうです。平塚市を含めた地域でも、夜間2次救急で小児医療を対応できるのは平塚市民病院だけで、子どもの医療体制が危うくなっています。また、大きな課題として子どもの貧困があり、6人に1人が十分な教育を受けられないと言われています。

このように、現代の子育てには様々な課題があります。行政では多くの部署が携わっていますが、別々の施策では対応しきれない問題が生まれてきました。そこで、4月からは子ども・子育て推進会議を立ち上げ、生まれてから育て上げるまでの課題を総合的に捉え、お互いの施策を連携して解決する取り組みをはじめたところです。

高齢福祉について

【参加者】

今年度から、金目地区社会福祉協議会の会長になりました。平塚市には全国に先がけて、町内福祉村が活動している地域がありますが、金目地区では自治会単位7つの地域にある独自のサロンが活発です。超高齢社会には、独居高齢者の生活や高齢世帯の老々介護など、命に関わる課題があります。この金目地区では決して悲しいことがないようにと一生懸命取り組んでいます。そのためには共生社会を構築する必要があり、サロンを中心とした互いに支え合ってコミュニケーションする活動が大切です。プライバシーの観点から個人情報の把握は難しいですが、地道な活動が広がって地域のために機能してほしいと思います。

【参加者】

高齢者よろず相談センターひらつかにしで、金目地区と土沢地区を担当しています。昨年からは北金目の地域に出張窓口を開き、多くの方に御利用いただいています。公民館や自治会館などの7か所にて、地区社会福祉協議会と共催で行うふれあいサロンは、地域の皆様の御協力もあって活性化をみせており、様々な相談や介護予防のための運動を行い、お互いの見守りに役立っています。活動を通して、身近な地域での支援が本当に大切であると痛感しています。特に金目地区は広いため、細かい範囲でのふれあいサロンは効果があります。町内福祉村の機能が地域に点在しているようなものです。これからもこの地域に合った方法で、高齢者の方を支援していきたいです。

【市長】

ふれあいサロンでの活動を本当にありがたく思います。金目地区のサロンには、私も参加させていただいたことがあります。参加される高齢者の方はとてもお元気で、私よりも体の動きが軽やかでした。高齢化が進む中、地域を地域で支える新しい仕組みである町内福祉村の設置をお願いし、今は17の地域で開設していただきました。決して強制的なものでなく、私が住む田村地区では地区社会福祉協議会による活動が盛んです。それぞれの地域に合った支援の方法で取り組んでいただくことが良いと考えています。

全国的な傾向ですが、平塚市も支援の細分化を考えています。高齢者の方や障がいのある方に住み慣れた地域で、医療や介護、予防、住まい、生活支援というサービスが切れ目なく提供できる地域包括ケアシステムの構築が必要で、現在取り組みを進めています。

また、高齢者の方や障がいのある方の情報を把握することも非常に大切です。災害時には、誰がどこに住んでいるかを知らなければ助けることができません。私は市職員の頃に災害対策の部署にいたことがあります。当時から、高齢者の方や障がいのある方には、有事の際に支援が必要なことだけでも平常時から発信してほしいとお願いしてきました。法律や条例の改正も進み、現在では災害時に情報を把握する手段も整備されてきました。

【参加者】

「でこぼこIN金目」という子育て支援を2年前くらいから行っています。様々な世代の方が一緒に集える活動で、保健センターの職員の方にも御協力いただいています。保護者の方が地域の公共施設に身長計を設置してほしいと話した時に、参加いただいた高齢者の方が、「家の柱に傷をつけると、成長の様子と共に思い出も刻まれるのよ。」と話してくれました。保護者の方と一緒に感動したことと、子育てには異世代との交流が必要であると改めて認識しました。

【市長】

子どもや子育てをする保護者の方が異世代と交流することはとても大切です。八幡小学校では、学童保育ではなく、子どもが放課後の学校を利用して過ごす取り組みがはじまりました。その中で、地域の地区自治会連合会の会長から伺ったことは、子どもが遊んで過ごすところに、地域の高齢者を巻き込むことが重要であるとお話でした。まさに異世代との交流が子どもを育てるという考えです。このように平塚市には、自ら地域の子育てに参画しようと考えていただける方がいます。そのような意識の高い地域に学びながら、子育て世代と異世代との交流も図っていきたいと考えます。

【参加者】

高齢者の方の交通手段も大きな課題です。民間バス会社のバスの経路は、駅から放射線状に構成されていて、金目地区では横への移動が非常に困難です。

長寿会や民生委員の方から話があり、ふれあいサロンが遠い方のために、高齢者よろず相談センターひらつかにしの送迎車をボランティアで運行しています。しかし、保険の関係など、運転手には負担をかけてしまっています。

ふれあいサロンへの移動だけでなく、高齢者の方は買い物や通院の時に不便を感じています。超高齢化社会を迎える今、高齢者の方の移動を支える仕組みづくりが必要ではないでしょうか。

【市長】

可能であれば、送迎車の運行を介護保険などで対応できれば良いですが、今は法律的に確実ではないようです。前回金目公民館でほっとミーティングを開催させていただいた際にも、高齢者の方の交通の課題を伺いました。何年も経過して、解決できていないことは申し訳ありません。子育ての話題でも同様のお話がありましたので、再度併せて御意見を担当課に伝えさせていただきます。公的なものや民間バス会社による支援などを含めて考えたいと思います。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

本市は、平塚駅を中心として放射状に延びるバス路線が充実しているところですが、金目地区など、市街化区域でありながらバス停までの距離が遠く、公共交通の利用に御不便をおかけしている地域があり、この課題への対応として、本市では、既存のバス路線の再編等の他、路線バスを補完し、地域のニーズを満たす交通として、コミュニティバスやデマンド交通などの地域公共交通を考えています。

金目地区の公共交通に関しては、「東海大学正門と鶴巻温泉駅を結ぶ既存バス路線」の一部再編の他、想定される経路の一部で道路拡幅が必要ですが「平塚駅と東海大学前駅を結ぶ新規バス路線」の開設など、公共交通の利便性向上に向け、道路整備の進捗状況なども確認しつつ、引き続きバス事業者と協議してまいります。

また、本市で想定している地域公共交通は、交通が不便な地域において、地域内を巡回して、付近の主要なバス停までを接続するルート等を想定しており、将来にわたり持続可能な交通手段とするためには、多様な地域ニーズを地域が主体となって検討・集約した上で、地域内の短い運行区間とすることによる一定レベルの採算性を確保し、継続運営が可能な交通とすることが重要であると考えています。そのため、これまで本市としましては、地域の要望に応じて、先進事例の視察や事例研究などを、地域と連携して進めてまいりましたが、地域のニーズは、自宅付近から病院等の地域外の目的地までの長い区間の運行であることによる採算性の問題や、交通事業者の運行路線と重なることによる交通事業者との兼ね合いなどの課題があり、導入には至っていません。今後、さらに、金目地区の皆様も含め、市民の皆様方に、地域公共交通の導入を具体的に検討していただくために、地域が主体となった持続可能な地域公共交通の導入の考え方について、早期に取りまとめていきたいと考えています。

（事務担当は交通政策課交通政策担当）

安心安全について

【参加者】

災害時の避難場所に指定されていた五領ヶ台高校の跡地は施設になります。一時、避難場所は金旭中学校になりましたが、現在は片岡神社が避難場所に指定されています。しかし、その片岡神社も崖崩れを起こしたことがある危険な場所です。地域住民の安心安全のために、新しく五領ヶ台高校の跡地にできる施設も避難場所になってほしいと思います。

【市長】

五領ヶ台高校の跡地は、支援が必要な児童が通う神奈川県施設になります。御意見のとおり、五領ヶ台高校は地域の皆様の避難場所でした。神奈川県には、新しく施設ができた時には、改めて避難場所として利用できるように申し入れています。避難場所としてだけでなく、施設建設後の跡地に空きがあれば、この地域の皆様や子どもが利用できる場所となるように要望していきます。

【参加者】

小学校の連絡網では、時々不審者の情報があります。入学式の時に、学校には防犯カメラが設置してあることを聞きました。様々な事件が話題になる昨今ですので、地域にも防犯カメラの設置を考える必要があると思います。当然、賛否両論あることですが、地域住民が必要と判断した場合には、自治会や警察、行政など、どこに相談したらよいのでしょうか。

【市長】

防犯カメラには、その録画機能だけでなく、犯罪の抑止効果もあります。平塚市では2年前に、小中学校への設置を行いました。同様に予防効果がある防犯街路灯のLED化も、自治会が管理するものを市に移管していただき整備しているところです。御意見のとおり、プライバシーの観点から、地域への防犯カメラの設置には賛否両論あります。公的なものでは、神奈川県に補助要綱があり、自治会などによる設置への補助があります。

市長としてとても残念ですが、平塚市には危険なまちというイメージがあるようです。10月には、中心街に大型商業施設がオープンして多くの人がかかることも予想されます。現在、警察と連携して、中心街における防犯カメラの増設に取り組んでいるところです。平塚市全体の安全対策のために、取り組みは地域にも広げていく必要がありますので、御意見を担当課にお伝えさせていただきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

防犯カメラの設置については、自治会を通して本市危機管理課に御相談いただければ、助言などをさせていただきます。

なお、自治会などが独自に防犯カメラを設置する際の神奈川県の補助制度が自治会などへの直接補助から、市の補助制度を前提として間接的に自治会などへ補助する制度へ変更となったことから、自治会への補助制度の創設について検討しているところです。

また、中心街の通行量が多い歩道や人の往来の増加が見込まれる路線への防犯カメラの設置を検討しています。

（事務担当は危機管理課危機管理担当）

6 市長によるまとめ

本日は皆様の活動や体験の中から、大変貴重なお話を聞かせていただきました。本当にありがとうございました。全てにお答えできたか心配ですが、いただいた様々な御意見は担当課に伝えさせていただきます。

今日伺った皆様のお話に共通する大切なことは、地域で支え合う仕組みであったと思います。地域にはそれぞれ課題や問題がありますが、私は地域の豊富な人材を御活用いただき解決することが地域の発展につながると信じています。ぜひ、皆様の想いとお力で御尽力くださるようお願いいたします。

総合計画で謳わせていただいた「選ばれるまち・住み続けるまち」の実現に向けて、責任を持って市政に取り組んでいきますので、今後も御協力くださるようお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

7 その他の御意見

参加者の皆様から、次の御提案や御意見をいただきました。

【参加者】

公立幼稚園の保育料について、来年度から大幅に上がると聞きました。保育内容はほぼ変わらないと思います。上がった分の保育料は何に使うのでしょうか。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

公立幼稚園は、平成27年度から子ども・子育て支援新制度の幼稚園に移行したことにより、保育料は従前の12,000円の定額から、世帯の所得状況に応じて設定されることとなりました。

本市では、最上位の所得区分とその下位の所得区分においては、平成27年度と平成28年度は経過措置として従前の保育料12,000円に入園料300円を加えた12,300円としてまいりましたが、平成29年度からは、新制度に移行した私立幼稚園や新たに開所する港こども園と同様な保育料とする方向としています。

そのため、最上位の所得区分に該当する方につきましては、保育料の引き上げ幅は大きくなります。

このように、新制度においては、国は受益者負担の適正化の観点から所得に応じた保育料を設定しており、今回の改定は、これに基づき行うものです。

納付いただきました保育料は、公立幼稚園の運営費や更なる教育の充実のために活用させていただきます。

（事務担当は教育総務課学務担当）

アンケート結果報告

【アンケート回答数 16件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	11人
まあよかった	4人
どちらともいえない	0人
あまりよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	1人

問2 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

- ・皆さんが子育てを気にかけてくれて良かったです。
- ・良い機会になりました。
- ・子育て対策や医療問題、待機児童などを知ることができて良かった。
- ・ローカルな話題について、議論できて良かった。
- ・日頃の考えを市長に伝え、市長が答える、とても良い話し合いでした。
- ・もっと市長や皆さんのお話を聞けたら良かったです。
- ・子育てをするお母さんが参加して、意見を聞くことができて良かった。
- ・皆の意見を反映することは難しいですが、様々な意見を知る良い機会です。
- ・市役所関係部署と市民の対話集会があっても良いと思います。
- ・金目地区で育つ子どもがしっかりと成長できることを願います。
- ・地域の課題や子育てなど知ることができた有意義な時間でした。
- ・市長は参加者の意見に耳を傾け、身近な存在として感じる機会になりました。
- ・市長との対話や皆さんの意見を聞くことができる貴重な時間でした。
- ・皆様の御意見や落合市長のお話を近くで聞くこと、意見することができ、良い経験でした。